

## 今週のメニュー

## ■トピックス

PVC News No.113号を発行

塩化ビニル環境対策協議会

## ■随想

ららら、プラスチック (4) オリンピックの記憶

前 日本プラスチック工業連盟 専務理事 岸村 小太郎

## ■編集後記

## ■トピックス

## ◇PVC News No.113号を発行

塩化ビニル環境対策協議会

塩化ビニル環境対策協議会（JPEC）は、7月8日に [PVC News No.113](#)号を発行しました。近年の海洋プラスチックごみ問題や2050年カーボンニュートラル・脱炭素社会の実現に代表されるように、地球環境問題への関心が益々高まっています。このような背景から、今号の特集は「地球環境と塩ビ」をテーマとして、地球環境分野において著名なお二人の先生のインタビュー記事を紹介しています。一人目は上智大学大学院地球環境学研究科教授 <sup>おり あけみ</sup> 織 朱 實 氏、二人目は一般社団法人日本LCA推進機構(LCAF)理事長 稲葉敦氏です。

特集のインタビューの一つ目は、2020年1月に発刊された書籍「ごみから考えるSDGs 未来を変えるために、何ができる？」を監修された織 朱實教授に、SDGsに触れながら、海洋プラスチックごみ問題の解決策など「わたしたちが未来のためにできることについて」お話しいただきました。織教授は、容器包装リサイクル法をはじめとして廃棄物政策や資源循環政策などに携わってこられました。また海外の関連法規制にも詳しく、豊富な海外経験も活かして、SDGsを意識した行動の必要性を分かりやすく説明していただきました。

特集インタビュー二つ目は、2020年にLCAFを設立され、ライフサイクルアセスメント(LCA)の活用及び普及活動を推進されている稲葉理事長に、温室効果ガス(GHG)の排出量の算定や、カーボンニュートラルに代表される環境負荷の削減貢献評価などに活用されているLCAの必要性について話していただきました。2018年に稲葉理事長(当時、工学院大学先進工学部教



授)のご指導の下で実施した塩ビサッシを用いた樹脂窓のLCAも紹介しています。

特集のレポートでは、ブラインドや多様な間仕切りなどを手掛けている(株)ニチベイ(本社：東京都中央区、生産本部：神奈川県愛甲郡)を取材し、サステナブルな活動が続ける生産本部及び省エネ商品に代表される室内外環境を守る同社のSDGsへの取り組みについて伺いました。省エネ商品としては、塩ビとガラス繊維でできた遮熱性に優れたロールスクリーンと表面が塩ビでできている外付けスクリーン(シェード)について紹介しています。

次にインフォメーションの一つ目は、水不足や都市型洪水に代表される水問題を解決するために雨水利用を目的とした製品開発に取り組んでいる(株)トーテツ(本社：東京都品川区)にお伺いして、塩ビ管を用いた新しい地下雨水貯留槽について取材した記事です。インドにおける施工事例や国内で進めているプロジェクトについて紹介しています。

二つ目は、感染リスク低減に役立つ飛沫防止シートなど塩化ビニル製品加工に一途に取り組んでいる(有)オギ工業(愛知県春日井市)をオンライン取材して、昨年開発された「DIY感覚で取り付け可能な飛沫感染予防カーテン」についてお伺いし、シート材料や構造の特徴、開発のきっかけなど紹介しています。

三つ目は、長年硬質塩化ビニル板を手掛けている積水成型工業(株)(本社：大阪市)をオンライン取材し、感染症対策として生活に根付いた「飛沫防止パーティション」についてお伺いし、最近の状況や、メディアによって「アクリル板」と呼ばれていることが多い中で実際にアクリル板と違う塩ビ板の特長、及び開発商品など紹介しています。

広報だよりの一つ目は、膜材を通し様々な環境づくりに貢献する企業団体の「日本テントシート工業組合連合会青年部会」をオンライン取材し、9回目となる「テントアワード2020」の結果について伺い、受賞作品と共に同部会長による活動の抱負など紹介しています。

二つ目は、「PVC Award 2021」の開催と募集要項について紹介しています。今回のテーマは、「生活を豊かにするPVC製品」。生活の利便性向上や、環境配慮・リサイクル・安全・防災など社会のニーズに応える独創的な製品を募集しています。

PVCニュースのご講読を希望される方は、下記メールアドレスまで、送付先・TEL・希望部数などをご連絡下さい。

[info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)

## ■ 随想

### ◇ららら、プラスチック (4) オリンピックの記憶

前 日本プラスチック工業連盟 専務理事 岸村 小太郎

東京オリンピックの開会式を間近に控え、しばしば聖火リレーの様子がテレビで流れるが、どうもじっくり来ない。沿道の観衆に満面の笑顔で手を振りながら、歩くようなスピードで進む聖火ランナー……。私には、1964年東京オリンピックの聖火ランナーの印象が強い。彼らは、笑顔を見せるどころか、悲壮感さえ漂わせながら、トーチの白煙とともに小学4年生だった私の前をあっという間に駆け抜けて行った(写真1, 2)。



写真1, 2. 札幌の街を走る聖火ランナー (1964年9月頃、豊平橋付近にて筆者撮影)

左) 前方でカメラを構えての1枚目

右) 2枚目は、手動でフィルムを巻き上げている間に・・・

先日の国会での党首討論で、某党々首が前回の東京大会の思い出として「東洋の魔女、ヘーシンク、アベベ」を挙げていたが、私にとっての一番は重量挙げの三宅義信選手(※)だ。開幕早々、日本選手で最初の金メダルを獲得し、日本中を大いに沸かせた。あの時は、男の子たちの間で重量挙げごっこが流行り、路地裏で、「ジャークだ!」、「スナッチだ!」と、大きな漬物石やコンクリートブロックを頭上まで持ち上げて遊んでいた。

※ 2012年ロンドン五輪の重量挙げ銀メダリスト、三宅宏実選手の伯父

2020年東京オリンピックを機会に、日本プラスチック工業連盟では小冊子「スポーツとプラスチック(仮題)」の作成を計画していた(残念ながら、こちらも延期)。プラスチックがスポーツ用具にも広く使用されていることの広報が目的だが、あるきっかけで対象をパラスポーツにも広げている。

2016年9月にタイ・バンコクで開催されたアジア・プラスチック・フォーラムに出席した際に、併催されたASEAN地域のプラスチック展示会「A-PLAS 2016」に足を運んだ。



写真2(左), 写真3(右). A-PLAS 2016におけるタイ義肢財団のブース  
(2016年9月 バンコク BITEC にて筆者撮影)

展示会では、各種成型機やバイオマスプラスチックのブースが幅を利かせていたが、会場の片隅に、目立たないが気になるブースがあった。タイ義肢財団のブースで、プラスチックを使った義足に目を引かれた（写真 3）。「『スポーツとプラスチック』では、人間に優しいプラスチックとして、パラスポーツの用具も取り上げよう」と思った瞬間だ。

プラスチックを使った義足については、同年 12 月にベトナム・ハノイで開催された「プラスチック及びサステナビリティに関する国際会議」（現在は、Global Plastics Alliance に改称）で、アメリカ化学工業協会（ACC）のプラスチック部門が秀逸な動画を紹介している（図 1）。交通事故で片足を失った犬が、義足を作ってもらったことで生きる喜びを見つけ、セラピードッグとして老人ホームの入居者を癒したり、子供達と触れ合う姿を追ったドキュメンタリー作品で、作品の中ではプラスチックを使って義足を作製するシーンが映し出されるだけで（図 2）、プラスチックの利点を声高に宣伝することもなく、プラスチックが私たちにとってフレンドリーな存在であることをさりげなく表現している。現在も YouTube で公開されているので、是非視聴して頂きたい。

(<https://www.youtube.com/watch?v=FaZaVGCTGCw>)



図 1. ACC が制作した動画  
(2016 年 12 月 ACC のプレゼン資料より)



図 2. 犬用義足の作製シーン  
(YouTube 動画より)

さて、64 年の東京オリンピックの時は、三波春夫が歌った「東京五輪音頭」が大ヒットしたが、これとは別に「東京オリンピックの歌」という曲があったことをご存じだろうか。潑刺として好きな歌だったが、あまり歌われることなく消えていった。前者が当時はまだ珍しい海外からの人々を迎える国民の視点で書かれているのに対し、後者は選手の視点で書かれているため、大衆の共感を得られなかったのかも知れない。

ところで、64 年大会を前に、小学校の音楽の授業でこんな歌を習った。「子供の国のオリンピック 小さなむねに日の丸つけて 日本のこどもは みな速い／こどもの国のオリンピック 小さなむねに日の丸つけて 日本の子供は みな強い」という歌詞で、最後の「日本のこどもは・・・」のところでクラス中が沸き立ち、中には万歳をする子もいた。私はその空気になじめず、心の中で「アメリカの子供たちは『アメリカの子供は みな速い』と歌うのだろうか？、イギリスでは？、フランスでは？」と考えていた。

「東京オリンピックの歌ーこの日のために」

1962年（昭和37年）

この日のために 磨いた技と

この日のために 鍛えた体

聖火のもとに 悔いなく競う

いのち輝く 若人われら

感激の 頼りないに いま楽し

東京オリンピック オリンピック 歌え

(作詞：鈴木義夫、補作：勝承夫、作曲：福井文彦)

## ■ 編集後記

PVC（塩ビ素材）の特長を活かした製品のコンテスト「PVC Award 2021」（テーマ：生活を豊かにする PVC 製品）の作品募集を2021年7月1日(木)より開始しました。大賞には賞金100万円を用意し、「こんな思わぬところにも塩ビが」とか「塩ビだからこそその製品」といった、生活を豊かにする、社会に貢献する製品を発掘しようと考えております。PVCの持つ優れた加工性、印刷性、耐久性、耐摩耗性、耐腐食性、リサイクル性などの特長を活かすと共に、様々な機能を付与して、私たちの生活の利便性向上や、環境配慮・リサイクル・安全・防災など社会のニーズに応える新しい製品の応募をお待ちしております。

詳しくは公式ホームページ（<http://www.pvc-award.com/>）をご覧ください。

## ■ 関連リンク

- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)